九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

剣の尾根の麓から

平尾, 胖
小城市教育委員会 : 文化課長

https://doi.org/10.15017/1523919

出版情報：歴史を歩く時代を歩く : 服部英雄退職記念誌 : とことん服部英雄, pp.306-, 2015-03-31.
九州大学大学院比較社会文化研究院服部英雄研究室
バージョン：
権利関係：

剣の尾根の麓から

平尾　胖

先づは無事退職おめでとうございます。

「服部さんとの思い出」をと云われると、何だか気恥ずかしくて少し真面目に書こうかなと思いました。しかし、それも変な感じがして地のままでいきます。書くことが多くて何からとも迷いましたが、それも止めて徒然なる儘でいきます。

最初の出会いは確か文化庁の記念物課でした。史跡岡城跡に模擬天守閣を仮設するという現状変更の件でご相談に伺った時だと思います。仲野浩主任調査官の後任の方は、どんな調査官かなと不安でしたが、現状変更の理由を話すと「いいんじゃあないですか」との即答でした。「但し、四十日間です」と云われて、我意を得たりと飛んで帰県した事を思い出します。お蔭様で模擬天守閣は大成功で、ＮＨＫの行く年来る年でも取り上げられ、発泡スチロールの瓦に垂木等で一分の一の立派な？模擬天守閣が復元出来たことです。期間中は竹田市始まって以来の登城客でごった返し、大手門坂は士庶肩摩の状態でした。印象的だったことは、天守閣から見た阿蘇に沈む夕陽の感動的だった事。四月まで展示期間延長できたことです。

また、史跡岡城跡の保存修理では、県内唯一の国指定史跡であり修理の是非が問われていました。崩壊した西の丸近戸門右岸の石垣の保存修理の時、基礎工事には当時当り前だった生コンによる基礎工事を施工したいと申請したところ、「旧蹟に無い素材で復元施行することは、認められません。旧工法で復元して下さい。崩れたら、また復元すればいい」と指導されました。目から鱗で、至言だと感心しました。

次に思い出すことは、山登りです。既に花井主任調査官の宴席での八艘跳び事件や安原主任調査官の背広登山事件はありましたが、現地指導の前日にはリュツクと登山靴が送られて来る、というのは初めてでした。この人変わってるナと思いました。祖母山、傾山、久住山、大崩山と山行を重ねる内に、人柄の良さ、明晰さ、大らかさや優しさ、芯の強さ等々教えられる事が多々ありました。一つテントの中で酒を飲み、治ちやん等と放歌高吟したあの時はもう還りませんが、懐かしく思い出します。「剣の尾根の麓から、早月の流れエノハは踊る、一度お出でよこの馬場島へ、オオハイルー、オオハイルー、オーオーハイルー」、「薪割、飯炊き、小屋掃除、皆で皆でやったっけ、雪が深くてラッセルに、苦労したことあったっけ、今では遠くみんな去り、友を偲んで謳う歌」。一緒に山行する時は、事故が心配でしたが、他の山で滑落したと聞いた時は、如何して？と思いました。

次に思い出すことは、山窩の調査のこと。子供の頃のことを話したら、興味深々で是非現地に行きたいとのことで、近所の岩窟に案内したこと。また、近所の古老にも当時の話を聞き、根掘り葉掘り聞いていたこと。後に送られて来た本で、そんな研究をしていたのか、と感心しました。ただ、「僕の友達の」は、もう少し恰好よく表現してほしかったなあ。ただ、現在では九州の尾根を走る民族と文化については定説となりつつあり、先見の明を感じています。

色々ありますので、最後に全史協の思い出とします。その節は大変お世話になりました。岡城の公有化事業では仲野浩主任調査官の大恩、私の時代では旧竹田荘保存修理での牛川さん、埋蔵の河原さん、狩野久さん、花井さん、安原さん、岡村さん、本中さんの方々が印象的です。王道を走られた服部英雄様、今後の御活躍を祈念申し上げます。

（元竹田市教育委員会）